

# 12 詩2 詩を味わう

|    |  |
|----|--|
| 組  |  |
| 番号 |  |
| 氏名 |  |

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

## 新緑の頃ころ

高村光太郎

青葉若葉に野山のかげろう時、  
ああ植物は清いと思う。

ア植物はもう一度少年となり少女となり

五月六月の日本列島は隅から隅まで  
濡れて出たような緑のお祭。

たとえば楓かえでの梢こずえをみても

うぶな、こまやかな仕掛に満ちる。

小さな葉っぱは世にも丁寧ていねいに畳まれて  
もっと小さな芽からばらりと出る。

イそれがほどけて手をひらく。

晴ればかがやき、降ればにじみ、  
人なつこく風にそよいで、

ああ植物は清いと思う。

そういうところへ昔ながらの燕つばめが飛び  
夜は地虫の声さえひびく。

天然は実にふるい行状で  
こうもあざやかな意匠をウウつくる。

※かげろう…透き通った炎のよ

うに地面からゆら

ゆら立ち上る

うぶな…純真な。

意匠…デザイン。

① この詩の種類を答えなさい。

② ア植物はもう一度少年となり少女となりとありますが、これはどのような状態を表していますか。簡潔に説明しなさい。

③ イそれがほどけて手をひらく。とありますが、ここに用いられている表現の技法を答えなさい。

④ ウつくるとありますが、この主語は何ですか。詩の中の言葉（一文節）で抜き出しなさい。